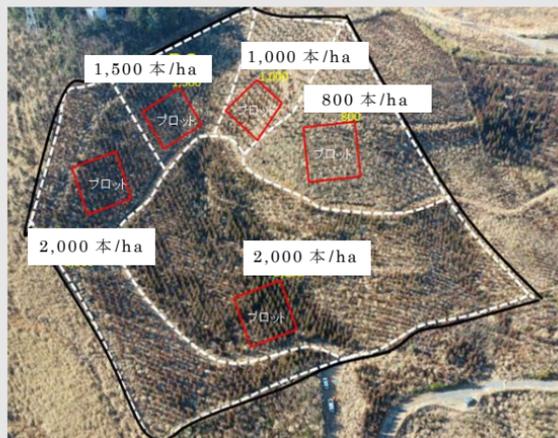


事例 8 低密度植栽による低コスト化の実証

(九州森林管理局 熊本南部森林管理署)



- 熊本県入吉市(ひとよし)西浦(にしうら)国有林
- 試験地の様子

九州森林管理局では、伐採から再生林・保育に至る収支のプラス転換を可能とする「新しい林業」の実現にも資するよう、大規模な試験地を設定して、植栽や下刈り等の実証を行っています。

熊本南部森林管理署では、平成 29 年度に植栽密度 2,000 本/ha、1,500 本/ha、1,000 本/ha、800 本/ha の試験地を設定し、苗木の成長量、下刈り作業効率について調査を行いました。植栽後 5 年目の時点では、植栽木の樹高・根元径は植栽密度による違いはありませんでした。また、2,000 本/ha、1,500 本/ha の試験地に比べ、1,000 本/ha、800 本/ha の試験地においては、植栽後 2 年目（平成 30 年）から 5 年目（令和 3 年）までの下刈りの作業効率が、2 割程度良くなったほか、苗木代は約 4～5 割に抑えられました。

今後、試験地における植生の変化やつる類による植栽木への影響等の調査を行った上で、国有林野における低コスト造林の推進に活用するとともに、民有林関係者へ普及していくこととしています。